

○実がたくさんできたよ 植物を育てよう4

(平成 23 年度版)

東京書籍 3年 9月上旬～9月中旬 3 (3) 時間

【単元の目標】ホウセンカやヒマワリ、ワタ、ピーマンの成長のようすに興味をもち、全体のようすや実を観察したうえで、たねまきから結実までの観察記録を整理して、主な成長の変化のようすについてまとめ、植物の成長には一定の順序があることをとらえることができるようにする。

学習活動とポイント項目

学習活動	時間	ポイント項目
第1次 育ち方を調べよう	3 (3) 時間	
<ul style="list-style-type: none"> 育ててきた植物の花がさいた後のようすを観察して、記録カードに記録する。 【観察①】 これまでの観察記録をもとに、植物の成長のようすをまとめる。 	2	1 導入について
<ul style="list-style-type: none"> 植物の成長のようすについて、わかったことや考えたことを発表する。 植物の育ち方とからだのつくりについてまとめる。 	1	2 育ち方をまとめる 【参考】ホウセンカの種とり

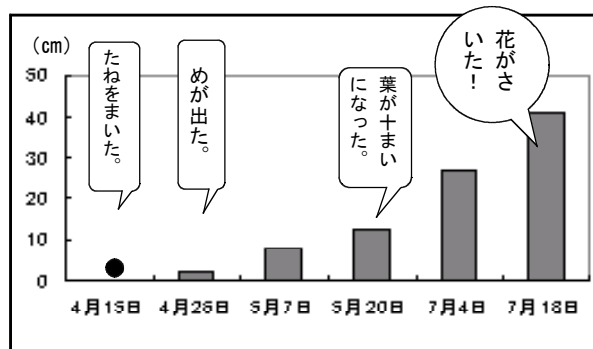
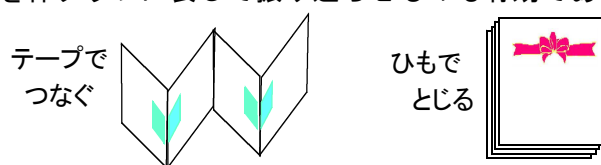
1 導入について

「夏休みが明けて、育てていた植物はどうなったでしょう」と問い掛け、観察への意欲をもたせる。夏休み前のつぼみにモールなどで印を付けていたら、その変化の様子を持続して観察できる。ホウセンカについてはこの時期に、つぼみ、花、実がすべて観察できるであろう。

2 育ち方をまとめる

4月の「植物をそだてよう」での学習計画を基に、これまで記録してきたカードをセロハンテープでつないだり、ひもでとじたりして一冊にまとめる。

右のように、それぞれの時期ごとの植物の背の高さを棒グラフに表して振り返らせるのも有効である。



たった一つの小さな種から大きな植物のからだができ、花を咲かせ、次の代の小さな種をたくさんつくることにふれ、生命の不思議さ、すごさに気付かせたいところである。

【参考】ホウセンカの種とり

ホウセンカの種は飛び散るので、花が咲き終わったら根元の地面にビニルシートを敷いておくとよい。採取した種を観察させるとき、種まきをしたときの残りの種と比較させ、形や大きさが同じであること、一つのたねからたくさんの種ができたことに気付かせたい。

また、指で触るとパチンと種がはじけ飛ぶ様子を観察させながら、種が広く分散するための工夫であることを合わせて理解させたい。